

支えあいのまちづくり協議体(日本橋地域)実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う「支えあいのまちづくり協議体(第2層協議体)」の令和4年度第1回目を、日本橋地域(はまる一む)で開催しました。

1 実施日

令和4年5月17日(火)13:30~15:00

2 出席者

日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター 計8名

3 内容

- ・出席者近況報告
- ・新任職員紹介
- ・意見交換、ワーク:仲間と出掛ける仕組みについて

4 出席者近況報告

前回の協議体以降の地域の様子や変化、高齢者を取り巻く環境について、各々から報告を行った。

- ◆ GW以降、感染者数の増加などを懸念していたが、地域ではそのような動きは感じられていない。
- ◆ これまで地域での行事を自粛してきたが、再開の動きが徐々に出てきている。
- ◆ 感染者数の減少や気候が穏やかになってきたこともあり、外出する高齢者が増えている。自粛を続けることで身体機能の低下が懸念される高齢者にとっては良い傾向だと思う。
- ◆ 小学生が学校帰りにお店に立ち寄ってくれており、子どもの居場所の必要性を感じた。他方で保護者や学校とのつながりをどのように築くか工夫が必要だと感じている。
- ◆ 来所件数も増えており、地域が動き出したと感じている。また、コロナ禍で見落とされがちになっていた課題が顕在化することも増えてきた。
- ◆ 外出の機会が増えた高齢者が怪我をされるケースが増えている。また、認知症などこれまで見られなかった変化を身近な高齢者から感じている。
- ◆ 高齢者の中には熱中症を懸念し、人がいない場所ではマスクを外される方が少しずつ増えている。
- ◆ 介護と子育てが重なる世帯が年々増えてきている印象がある。そういった点からも「多世代」に焦点を当てる取り組みが必要だと思う。

5 意見交換、ワーク:『仲間と出掛ける仕組みについて』

前回までの協議体は、①担い手②場所③対象④内容を項目ごとに分け、高齢者が仲間と出掛けるためにはどのような工夫が必要か意見交換を行った。今回の協議体では、①~④の内容を項目ごとに考えるのではなく、別紙の仕組みにあてはめて「自分だったらこんなことをやってみたい!」というアイデアを抽出するワークを実施した。(別紙参照)

6 今後のスケジュール

次回は7月または8月に開催予定。